

# 希望の種

ふくおか NPO ファイル

19

派手なメイクに露出度の高い服装、深夜のコンビニや繁華街を一人で徘徊する10代後半ほどの少女。もしかしたらその後、風俗店の入り口をくぐるのかもしれない。あなた彼女の生活背景をどのように想像するでしょうか。

NPO法人「そだちの樹」

(福岡市中央区)が運営している電話とメールの相談窓口「ココライン」から聞こえてくる少女たちの現実、驚くほど厳しい状況です。「親に虐待されていて、働いたお金は全部取られてしまう」「居場所がない、今すぐ死にたい」「売春をして生活している。妊娠したので堕ろし方を教えてほしい」など。他に日々の

## そだちの樹

事務所＝福岡市中央区▽電話番号＝092(791)1673  
メールアドレス＝office@sodachinoki.org

生活や就職活動の悩み相談なども含まれています。

そだちの樹は県内の弁護士有志を中心に、2012年に設立されました。当初は福岡市の補助を受け、行き場の無い少女たちが宿泊もできる一時避難場所としての「子どもシェルター」を運営していま

# 行き場ない子のため

は相談のハードルが非常に高く、融通が効かない存在だと認識されており、逆に性風俗産業等は自由にお金ももらえろという意味では「魅惑的な存在、つまり競合になってい

るのではないかと、という大きな課題にも気づきました。そのような紆余曲折を経て

昨年4月にスタートした「ココライン」は開始1年で71件の電話またはメール相談、14件の直接面談、ホームページには4714件のアクセスがありました。児童相談所や自治体の子育て支援窓口、大学、高校などの職員に、電話番号が記載されたカードを持って

したが、2年間の運営の後、「入所者数が目標より少ない」という制度上の理由から補助費が減額され、閉鎖となった経緯があります。

しかしメンバーはその後、シェルターを運営するという「手段」に固執するのではなく、子どもたちを社会に迎え入れるという「目的」を見据え、議論を繰り返してきました。

分析の結果、実は自分たちが安心・安全をうたう公共の福祉施設等は、子どもたちに



「ココライン」の連絡先が記されたカード

もらい、大人も経由して子どもにつながる戦略を取ること、確実な効果をあげています。

職員岩永桃子さん(25)は、社会福祉士と精神保健福祉士の資格を持っています。「子どもたちは必ずしも、自分が何に困っていて何を相談したいかが、きちんと言語化できていないわけではないんです」と語る岩永さん。法的なサポートが必要な場合には弁護士に対応を引き継ぎますが、ただじっと話を聞くこと

も少なくありません。家や学校に居場所がない、友人もない、関係性の「貧困」は、子どもたちにとって大きな問題です。

私たちが、地域で身の回りにいる、困っているかもしれない子どもにも「お節介」を焼くのは心理的にも簡単な事ではなく、防犯上の懸念もあるでしょう。そんな時、本人ではなく大人から「ココライン」へつないでもらうことも可能です。専門家と市民のリレーで、私たち一人ひとりが子どもたちの未来を照らす小さな希望となることができます。

原則毎週月曜掲載

(仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介)